

寒い冬も暖かい森の家

宿泊体験募集

森の家展示場で、宿泊体験を受け付けております。超省エネ住宅の暖かさ、たっぷり使われた木の心地よさを体感してみてください。



《宿泊要件》

- ・展示場をご見学され、アンケートにご記入いただける方
- ・熊谷市から、車で1時間圏内にお住いの方
- ・原則、ご家族での体験とさせていただきます



お客様の声

- ・木の感触が心地よい
- ・また夏にも宿泊体験してみたい。家づくりについてゆっくり話せました。
- ・暖かで大変快適でした。
- ・バイオリンの音の響き良かった。

お問い合わせ

☎ 048-527-8181 「宿泊体験をしたい!」とご連絡ください
①森の家HP内「お問い合わせ」から (大久保)

大和屋住宅部労働安全衛生協力会

安全大会を行いました

10/7(金)に安全大会を行いました。安全表彰は外装テックさんと紫崎タイルさんです。また、チームスマイル全員で足場の安全に対して再確認しました。チームスマイルは皆様の笑顔の為、安全第一で工事を行います!



(西村)

ふれあい通信

大和屋 住宅部 〒360-0031 熊谷市末広2-118 TEL.048-527-0001

2016.11
Vol.167
NATUR FÖRST
森の家

Life navi

オーストリアから来たインターン生のステファンさんが作成しました。

今回は2015年11月にオープンした和菓子処「かんだ和彩」さんをご紹介します。幼少の頃から、店主の神田さんは日本の伝統工芸を職にすると決めていたそうです。その夢をかなえる為、彼は千葉の「菓匠 白妙」で5年働き、その後、京都にある「京菓匠 遊月」に入りました。熊谷で自身の店を開き、京菓子の魅力を埼玉に伝えるまでに16年間の歳月を修行に費やし、和菓子職人の腕を磨いたのです。

小さな芸術菓子の隣には、お団子やどら焼き、わらび餅など、馴染みのある和菓子も並んでいます。その他、和菓子屋さん以外では見つけにくく、伝統的な日本のレシピを基にした美しい和菓子があります。これらの中で、ゆず味の水晶のような和菓子(琥珀羹yuzu(柚子))や透き通ったビー玉のようなハート型のレモンゼリー(琥珀羹Lemonわたしの宝石)、シズリユキという抹茶味のモチモチ生地のパディングは定番メニューです。その他、季節限定メニューもあります。

一度、お店に訪れた人は、今月ほどのように美しく新しい和菓子が生まれたのかを楽しみにし、間違いなくまたこのお店に来るでしょう。

(Stefan Scheucher(ステファン・ショイヘア))



【和菓子処 かんだ和彩(わさい)】

住所:熊谷市鎌倉町2
営業時間:9:30~18:00(水曜定休)

くまがや館

ギャラリー開催予定

- 10/28~11/2 井上 司作品展
- 11/5~9 それぞれの画材で描く作品展
- 11/11~16 優刻案 作品展
- 11/25~30 押し絵ちりめん細工展示・販売

くまがや館:
熊谷市筑波1-29 ☎048-521-4625



住まいの作り方教室

日時: 11/19(土) 13:30~15:30
場所: 森の家展示場(熊谷市中央3-2)
テーマ: 「家をつくる時の知識」



お問い合わせは…森の家展示場048-527-8181

編集後記



11月…年末が近づき、なんとなくですが、気が早い季節となりました。暖かい展示場にいると外に出たくない私です(ーx-)。展示場での宿泊体験はなんといっても冬が一番のオススメ。ぜひ展示場のぬくもりを多くの方に体験していただきたいと思っております。ご予約、お待ちしております。(大久保)

森の家展示場: 10:00~17:00(水曜日定休)

FacebookとInstagram更新しています!

f 森の家 で検索

📷 大和屋 森の家 で検索

http://morinoie.info morinoie@morinoie.info

住まい考

No.156



有り難うございました

「住まい考」156回、前回お知らせした通り最終回です。1回目から数えて13年になりますが、実は「ふれあい通信」発行以前に、やはり十数年間「From 1」いう情報誌を発行し、原稿を書いていました。「ふれあい通信」と「From 1」、はつきり覚えている訳では有りませんが、トータルで25年を優に超えるはず。ちょっと寂しい感じもしますが…。

「住まい」に対する思いや考え方、新しい情報や自分たちの取り組みその行動等を、思いつくまにということで、書いてきましたが、こうして振り返ってみると、長いようで短い・短いようで長い25年間でした。この間、技術革新や新商品開発が飛躍的に進み、国の法律や考え方はもちろん、「住まい」に対する考え方・工法等も、次々に新しいものが生み出され、その造り方や「住まい」そのものが、大きく変わりました。中でも特記すべきは、その性能面。大きな災害が切っ掛けとなった部分も有りますが、強度・耐久性、気密・断熱性能等が飛躍的にアップしました。もちろん、これからもまだまだ、より良い「住まい」を造り上げて行くために、努力の手を緩めることは有りません。

ただ、「住まい」は、人がそこに住むというのが大前提。根本的な考え方は、技術が進歩しようが、新商品開発が行われようが、不変です。陽の光、通風、そして自然素材、それを「住まい」造りのベースとして、忘れることなく持ち続けていなければ、心がそして体が、満足する「住まい」は、決して造り出すことは出来ないと思っています。

「住まい考」長い間お付き合い下さり、有り難うございました。もちろん今後も「ふれあい通信」の発行は続きますので、これからも引き続き、宜しくお願い致します。

By 川久保

*住まいについての、ご意見・ご質問お寄せ下さい。どんなことでもご遠慮なく!



10月号の答え ①女の子の前髪 ②向かって右の手 ③かぼちゃの目



同封ハガキに、まちがいを3つ書いてご応募ください。抽選で、図書カードを差し上げます。